

第3回デジタルな形態を含む新たな教科書に関する指針検討会議

「令和 5、6、7 年度 学習者用デ ジタル教科書の効果・影響等に関す る実証研究事業」からの報告

7.16.2026

太田 洋

東京家政大学

実践の特徴と 効果の表し方

- 「現状の課題」



「手立て」



「目指す姿」

「学習者の変容」 + 教員の変容
(観察と事後調査－教員の振り返り、
児童・生徒アンケート)



R7年度 池田大恭先生 「ALTに日本や鹿屋市のことをもっと知ってもらうために、自分の“推し”を英語で紹介することができる。」

- 「現状の課題」

- 生徒は教師に指示されたことのみに取り組む傾向が強い。生徒が自分で学び方を考える機会が少なく、学びの選択肢が一边倒になっている。



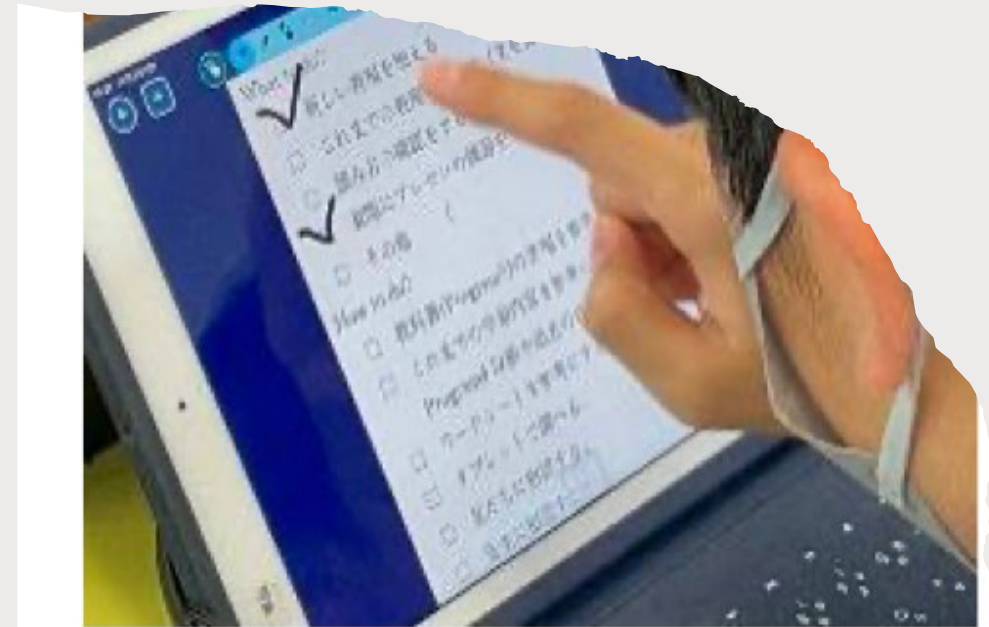
- 「手立て」

- デジタル教科書や友人・授業者・ALTとの議論など、多様な学習方法を活用し、プレゼンを改善するよう促す。



「目指す姿」

- ICTを中心とした多様な学習リソースの中から、生徒が自身で学び方を選ぶ



生徒が学習方法にチェックを入れて選択

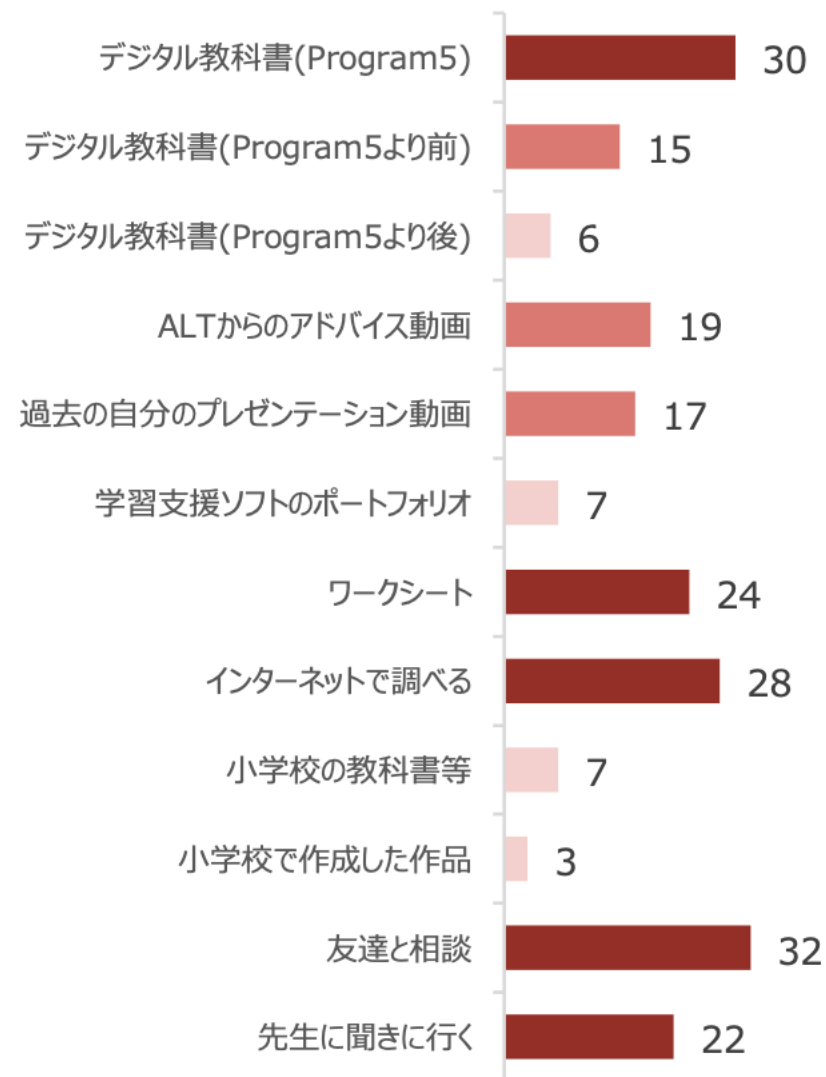
What to do?

- ☐ 新しい表現を加える
- ☐ これまでの表現を見直す（文を整える）
- ☐ 読み方の確認をする
- ☐ 実際にプレゼンの練習をする

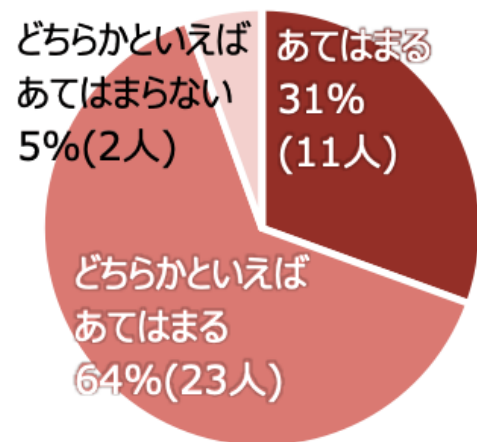
How to do?

- ☐ 教科書（Program5）の表現を参考にする
- ☐ これまでの学習内容（Program4以前や過去の自分の作品等）を参考にする
- ☐ ワークシートを参考にする
- ☐ タブレットで調べる
- ☐ 友だちに相談する
- ☐ 先生に相談する

Q2. プレゼンテーションの内容を改善するために、授業中にはどのような方法を使いましたか。
（複数回答可） [N=38]

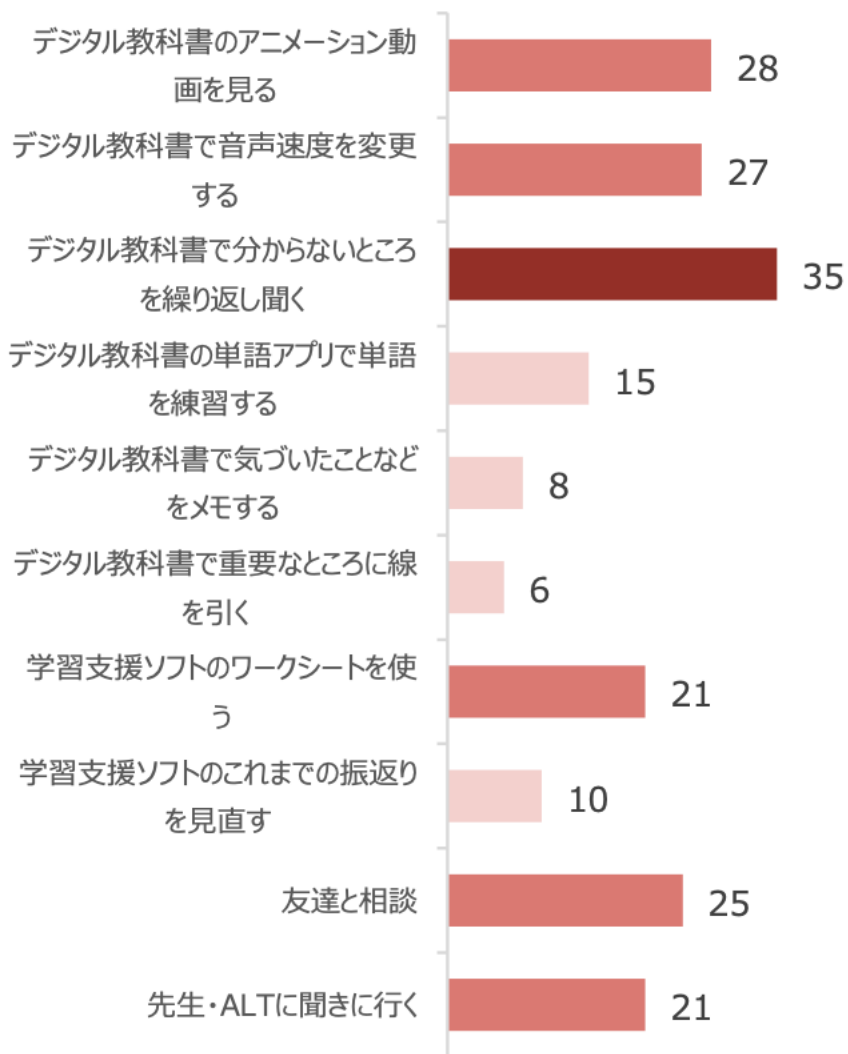


Q1. 先生の指示だけでなく、自分で最適な学び方を考えながら進めることができましたか。[N=36]



約90%の生徒が学び方を変えたと回答

Q2. 授業の中で活用した学習方法のうち、役立ったと感じるものを全て選んでください。
(複数回答可) [N=36]



R6. 三枝英太郎先生 「自分の夏休みを、トム先生の家族や親戚に伝えよう」

- 「現状の課題」
 - 家庭学習で設定した課題と授業時に記入する「本時の目標」や「振り返り」の内容が**整合しておらず**、家庭学習と授業を**繋げられていない**。
↓
- 「手立て」
 - 表計算ソフトに家庭学習の取組内容を記録し、学級全体で**共有**する。良い取組例があれば、授業者から**紹介**する。
↓
- 「目指す姿」
 - 表計算ソフトで共有された友達の学びを参照している。
 - 友達の家庭学習の取組を**参考**にしながら、各自の設定する課題や取組内容を**自己調整**している



▲各児童の家庭学習の取組を記録した一覧シートを大型提示装置に投影



◀取組内容は児童によって様々

- 前頁のポイントのうち、「家庭学習」について、実際に学級で利用されている表計算シートを用いた「一覧シート」の例を紹介します。

表計算ソフトを用いた家庭学習の一覧シート

一人一行、自身が行き届く「課題」「内容」を記入

- 表計算ソフトのシートは授業日別に作成し、児童ごとに行を設ける。
- はじめに、単元ゴールに向けたそれぞれの課題を記入させ、その課題に向けて取り組むデジタル教科書の内容を記入。
- 表計算ソフトはリアルタイムで共有され、友達の取組も一覧で見ることができる。

名前	日付	ゴールに向けての今日の自分の課題	Unit	コンテンツ1	コンテンツ2	何ができるようになったの？ 何が分かったの？	なんでそれを取り入れると 良いの？など	今日の家庭学習の振り返り
山田一郎	2024/12/1	その場所で行くことができるかを英語で言えるようにする。	4	story	Let's listen	We have ~ の次に you can ~ を付け加えられるようになった。	「そこに行ったらこのようなことができるのか」と興味を持ってもらえると思ったから。	今回は、普通の会話のときにどのような英語を使うかを意識して考えたので、今回はLet's listenを使いました。次からは「いつここに行った」などを付け加えられるようにしたいです。
田中二郎		観光名所がどこにあるのかを言えるようにする。	5	Let's watch and think	Let's chant	「In front of」を言うことができた。	「〇〇の前にある」と言うことで、居場所がわかるから。	今回は目次を見てコンテンツの内容を見つけました。その中で「You can～」というものがつくものを聞いて聞きました。
鈴木三郎		食べ物は何円？なにかを英語で言えるようにしよう。	7	Let's watch	small talk	食べ物の値段が言えるようになった。	食べ物は何円？かを言えば具体的に説明できるから。	今日の家庭学習では、授業で何円？なにかがあまり言えなかったもので、今までの英語を使って、食べ物は何円？なにかを英語で言えるようにしました。また、値段を言うときに、デジタル教科書で調べながらやりました。
佐藤四郎		どんな英語を使えば詳しく言えるかを考えながら調べよう。	6	picture dictionary	Let's speak	景色が綺麗というときに「you can see」とか言えるようになった。	詳しくどんなことができるのかを知ってもらえば魅力も伝わりやすいから。	今回の学習では何が見れる、何が食べれる、何が見れるとが沢山自分の経験を活かしながら紹介することを意識してやりました。その時に、どこを見れば情報があるのかわからなかったから自当てる内容が少しにっていた小林さんのところに行ってどこに情報があるのかを聞きに行きました。

story

Let's chant

Let's listen

Let's watch

Let's speak

small talk

picture dictionary

Let's watch and think

取組内容はプルダウンで可視化

- ◀ 単元やコンテンツ等はプルダウンの選択式とし、記入や取組内容の振り返りを容易に。既習事項の振り返りも可視化されることで促進する。

取組後の「振り返り」を記入

- 取組後、その日の家庭学習を振り返り、できるようになったこと・なぜその表現を発表に取り入れたのか・全体を通した振り返りを記入する。
- これらを言語化することで、児童自身で学びをメタ認知することができる。
- 教師は児童の学習状況を把握でき、授業や個別での指導に繋げる。
- 児童同士でも次の自分の学びに向け、互いの学び方を参照している。

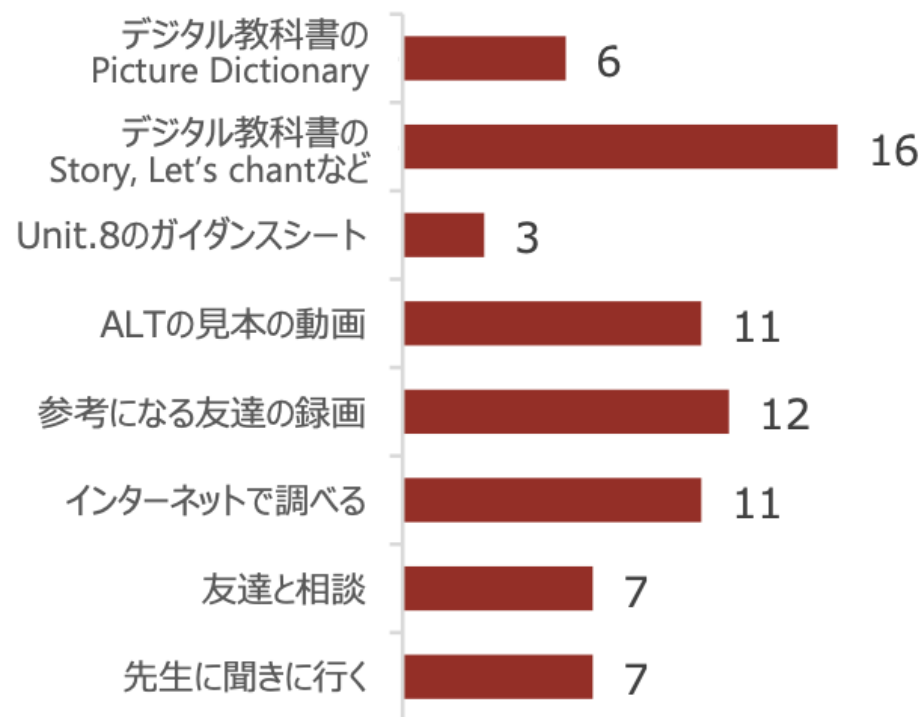
児童の取組内容によっては、授業者からコメントを入れ、価値付けやアドバイスを行うこともある。

三枝 三枝英太郎
15:04 12月9日

👍👍👍👍
毎回、振り返りが細かくていいね。自分の学び方をよく自覚しています。
「自分の感想」いいね！！
食べたことあるのかな？言ったことあるのかな？見たことあるのかな？

授業後アンケート結果（一部抜粋）

Q5. 自分の発表を良くするために、授業の中で情報収集する時間では、どんな方法を使いましたか。使った方法を「すべて」選んでください。（複数選択可）
[N=17]



Q6. Q5で回答した方法を使ったのはなぜですか。
（自由記述※）

- デジタル教科書を見れば、「こういうことを授業でやったな」と思い出せるし、「これいいな、（自分の発表に）付け足そう」と思えるから。
- デジタル教科書のStoryなどを見れば、分からなかった英語を知れるし、このような場面ではこのような英語を取り入れればいいんだ、と分かるから。
- 友達の動画を見て、自分を取り入れたい英語を使っていたらその友達に相談して解決している。友達が分からないと言っていたら、「これを付け加えると良いよ」とアドバイスをしている。

R6. 野村先生「Think2の内容を理解し、日本のアニメや漫画について自分の感想を伝えることができる

・「現状の課題」

- 教科書の音読はある程度できるが、その内容について生徒が**自分の意見**を英語で表現することは難しい。



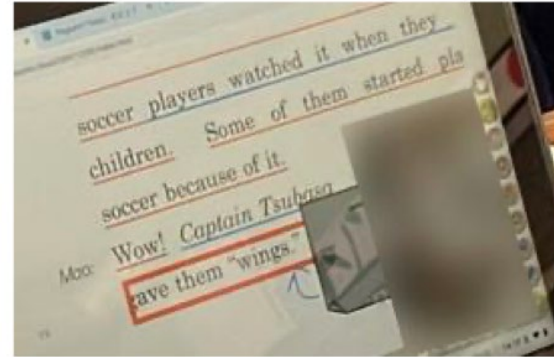
・「手立て」

- デジタル教科書を用いて、自分の意見に**引用**できそうな本文の箇所に**マーカー**を引かせたり、メモを取らせたりする。
- デジタル教科書を活用して、本文で印象に残った文に**マーカー**を引かせ、特にその文を意識的に音読練習させる。
- 学習支援ソフトで意見を**共有**し、お互いに**参照**できるようにする。

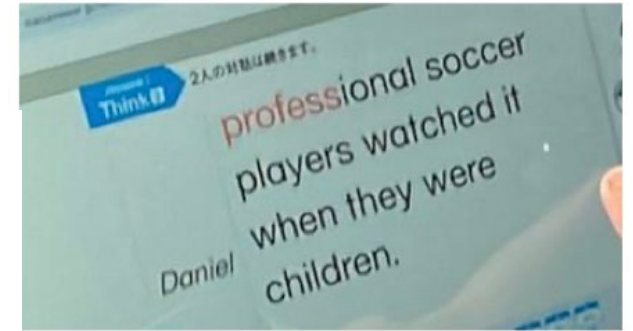


「目指す姿」

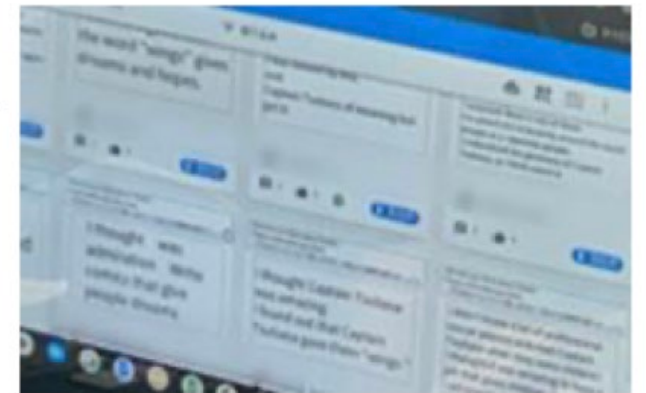
- 他の生徒の意見を参考に、自分の意見の改善を図っている。



▲色分けしながらマーカーを引いたり、特に印象に残っている文を枠で囲んだりしている様子

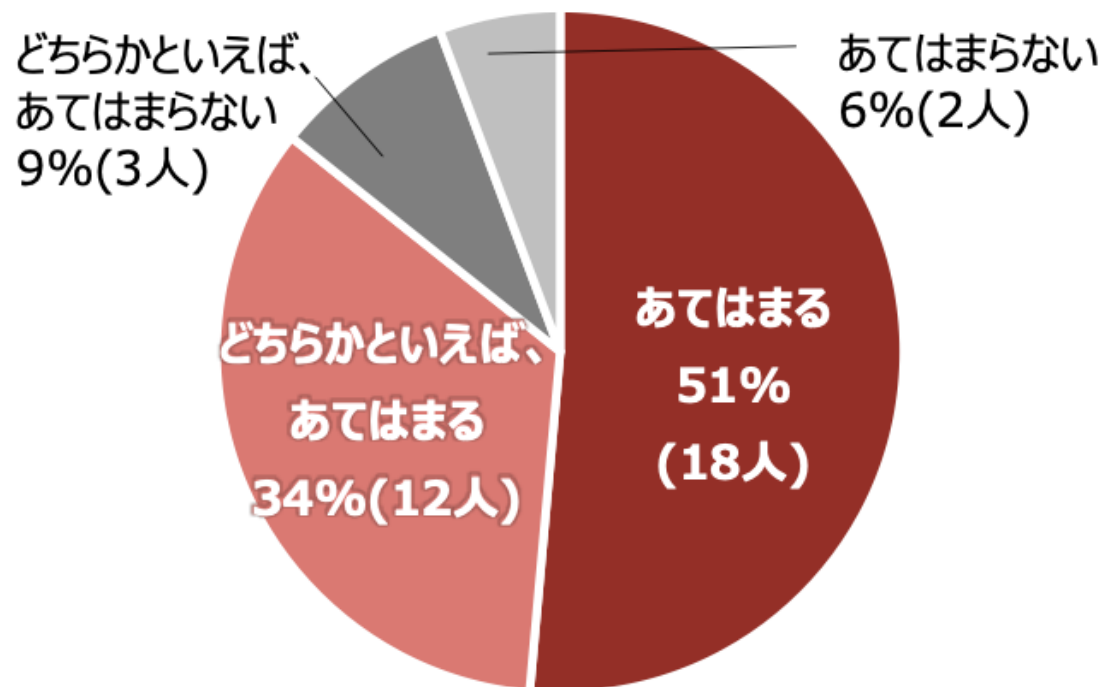


▲本文が一文ずつ表示され、音声再生されている箇所の色が変わる

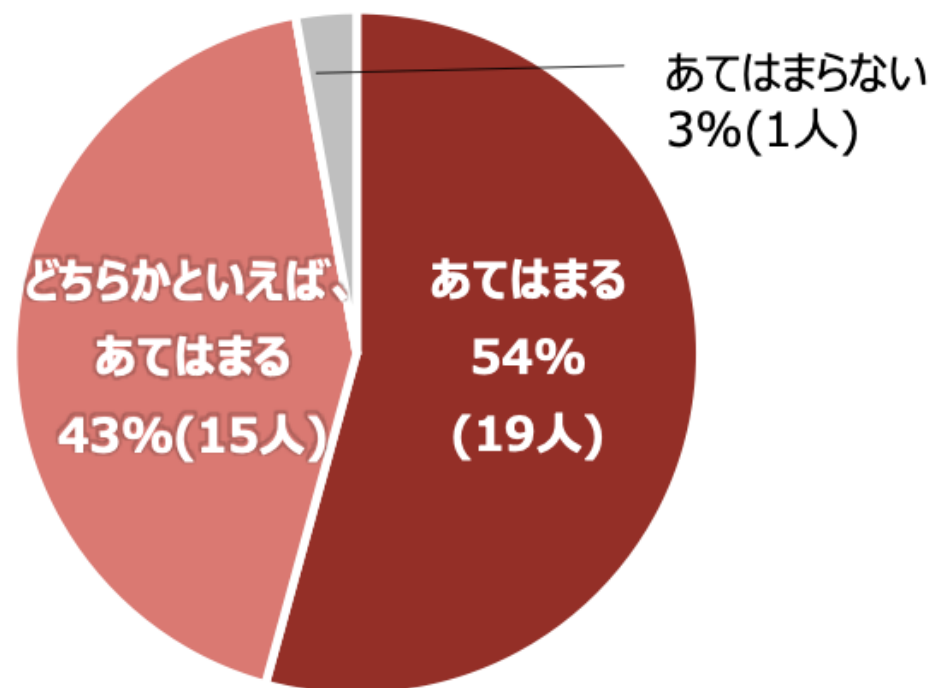


▲各生徒の書いた意見文を学習支援ソフト上で一覧化

Q1. 自分の意見を伝え合う活動を意識しながら、教科書の本文の印象に残った文をマークしたり音読したりすることができましたか。[N=35]



Q2. 学習支援ソフト上に共有された友達の意見を参考に、自分の意見をより深く考えることはできましたか。[N=35]



Q3. 自分の意見を考えたり話したり書いたりしたときに、参考にしたもの（教科書の内容や友達の学習支援ソフトの書き込み、インターネット検索など）を教えてください。また、それを参考にした理由を教えてください。（自由記述※）

- 教科書の内容を参考にした。自分の知っている文法が多くて参考になるから。
- 教科書の内容を参考にして、引用しながら自分の考えを足していくことができた。



授業者（野村先生）

実証を振り返って

生徒が自ら学習方法を選択して本文の内容を理解し、意見を形成する活動に取り組むことに、はじめは「教科書の内容を網羅できるだろうか」「意見を英語で考えることは難しいのではないか」と抵抗がありました。しかし、中には自ら優れた意見を書くことができる生徒もいるので、それを取り上げることで生徒が自ずとお手本にするようになり、学び合いが習慣化しました。また、「教科書の文を引用すれば、意見を書くことはそこまで難しい」ということを生徒が理解したようで、デジタル教科書を参照しながら意見を考える姿勢も身に付きました。まずは教師が一步踏み出して試行錯誤することが重要だと感じています。

R5. 藤木真里佳先生 「自分たちが暮らす地域の魅力を、自分の気持ちを織り交ぜながら発表できる」

- 「現状の課題」
 - 児童の理解度に差があり、話すことに苦手意識を持っている児童もいる。



- 「手立て」
 - 単元ゴールの発表に向け、参考になるデジタル教科書のコンテンツを家庭学習・授業内で探して取り組み、学級で共有する。



「目指す姿」

- 自分で集めたコンテンツ及び友達が活用しているコンテンツを振り返り、自分の発表に活かす気付きを得て、発表内容を再検討する。



▲家庭学習シートを投影



▲既習の単元から
参考表現を探す

一人一行、自身が取り組む「課題」を記入

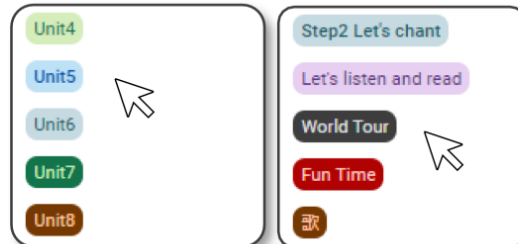
- 表計算ソフトのシートは日別に作成した上で、児童ごとに行を設け、はじめにそれぞれが取り組むべき課題の内容を記入させる。
- これにより、前後の授業での学び等をもとにして、**児童自身に取り組むべき課題を言語化させる。**
- **表計算ソフトはリアルタイムで共有され、友達の取組も一覧で見ることが出来る。**

番号	氏名	自分の課題	1				単元	回数	今日の学習を振り返って・次回にむけての課題	課題の振り返り	先生から
			単元	コンテンツ	スピード	回数					
1	山田 一郎	内容をもっとうまくしたり、チャンツの自分が喋る分に照らし合わせたりする。	Unit5	Step2 Let's chant	1	5	Unit5	4	自分が言いたいことと置き換えて聞いてみた。そして言ってみた。もうちょっと正しく言えるようにしたい。	なかなかよくできた	👍
2	田中 二郎	共有シートを見て推し人のすごいところを言えるようになろう。	Unit1	Step2 Let's chant	1	5	Unit5	5	色々な単元に行って使えそうなものを探してみた。Wellなどを使って話したい。職業を言う前にanをつけるのを忘れないようにしたい。	まあまあよくできた	👍
3	鈴木 三郎	共有シートを見て関連付けて話せるようにする。	Unit5	Step1 Let's listen	1	5	Unit5	3	関連付けて話せるようになった。スラスラ言えるようになった。自分の場合はaにする。	まあまあよくできた	👍
4	佐藤 四郎	共有シートを見て練習	Unit5	Step1 Let's listen	1.25	3	Unit5	2	自分の好きなものと関連付けて話す。話すときにaやanを使い分ける。スラスラ言えるようになってきた。	まあまあよくできた	👍
5	小林 五郎	出来ていない部分を補正しよう	Unit5	Step1 Let's chant	1	1	Unit5	1	性格や職業など 色々付け加えが抜けている部分があるから、もっと付け足したいと思った	あまりできなかった	👎
6	木村 六郎	推しの内容を追加しよう	Unit5	Let's listen and read	なし	4	Unit5	2	追加できなかった。あしたanをわすれないようにしようと思った。共有シートををみるのをわすれていた。もうすこしくわしくやろうとおもいました。	まあまあよくできた	👍

実際に取り組んだ内容を記録

- 実際に取り組んだ内容を、単元・コンテンツ・スピード・回数の別に記録する。（取組は1つに限らず、最大4つまでシートに登録可）
- コンテンツとその取組のヒントは、授業者から下表のように提示し、児童自身が「課題」に即して自由に考え、選択する。

コンテンツ	取り組み方
Story	登場人物になりきって、一緒に言ってみよう レベル1×0.75倍 レベル2×1倍 レベル3×1.25倍 まずはレベル1から挑戦！
Let's watch	Storyと同じ進め方でやってみよう 短いから取り組みやすい！
フラッシュカード	はじめはイラストのみ、慣れてきたらイラスト小→文字大 最後は文字だけで読めるかな？
Let's chant Let's song	挑戦するパートを決めよう。 レベル1×0.75倍 レベル2×1倍 レベル3×1.25倍 まずはレベル1から挑戦！
Let's listen	授業を復習したいときに使おう。 Storyみたいにやってみるのもいいね。

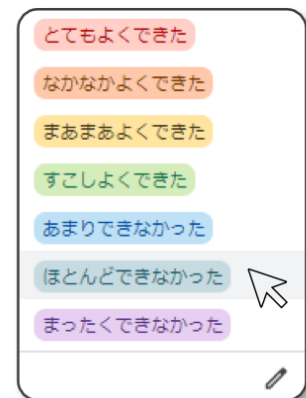


- ▲ 単元やコンテンツ等はプルダウンの選択式とし、記入や取組内容の振り返りを容易に。継続的な学びの変化を自他ともに把握できる。

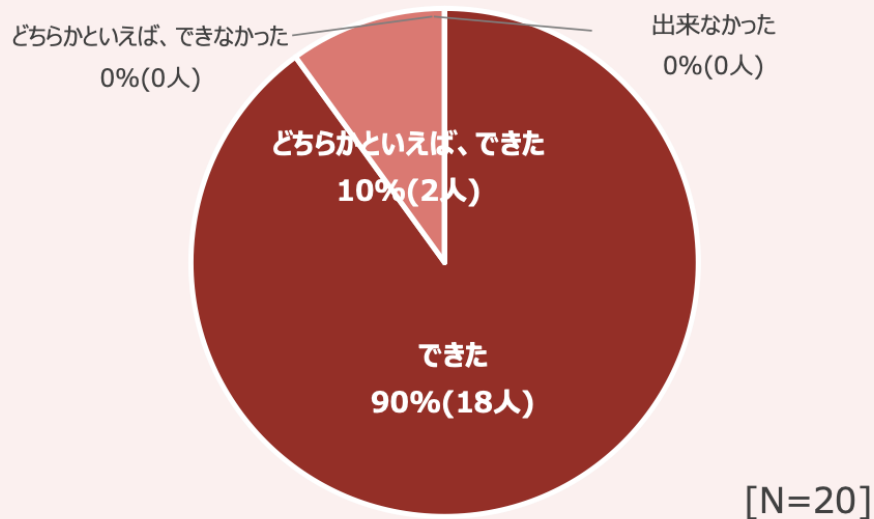
取組後の「振り返り」を記入

- 取組後、その日の家庭学習を振り返り、出来るようになったこと・困っていること等を記入する。
- 教師も児童の学習状況を把握できるほか、児童同士でも課題を共有。
- **家庭学習で互いの課題を見ていることで、授業での協働的な課題解決の活動に繋がる。**

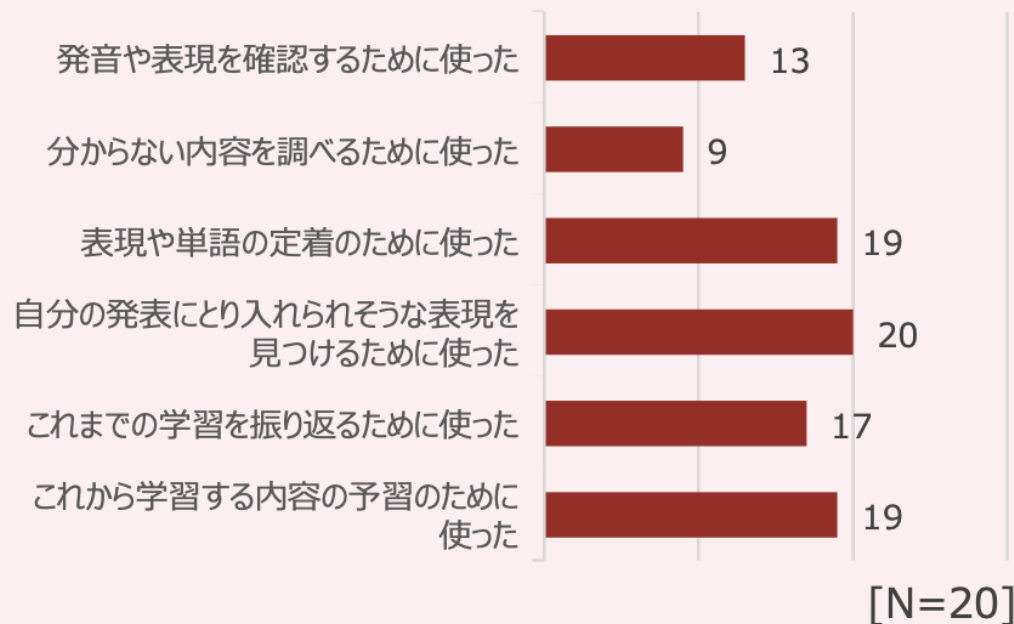
課題の達成状況もプルダウンから選択 ▶
児童の家庭学習の成果を可視化



質問：デジタル教科書から発表の参考になるページを集めてスライドを作る活動をととして、自分の発表をより良い内容にすることができましたか。



質問：家庭学習の中で、デジタル教科書をどんな目的で使いましたか。使った方法すべてを選んでください。(複数回答)



- デジタル教科書等により、子供たちは自分で既習事項に立ち戻る「ツール」を持っており、授業者は単元ゴールに向けて授業をデザインしていく立場に変わったと、**授業観を転換**することができた。

R5. 加藤栞先生 「教科書の課題「シンとナミの困りごととその解決策」のリテリングを発表する」

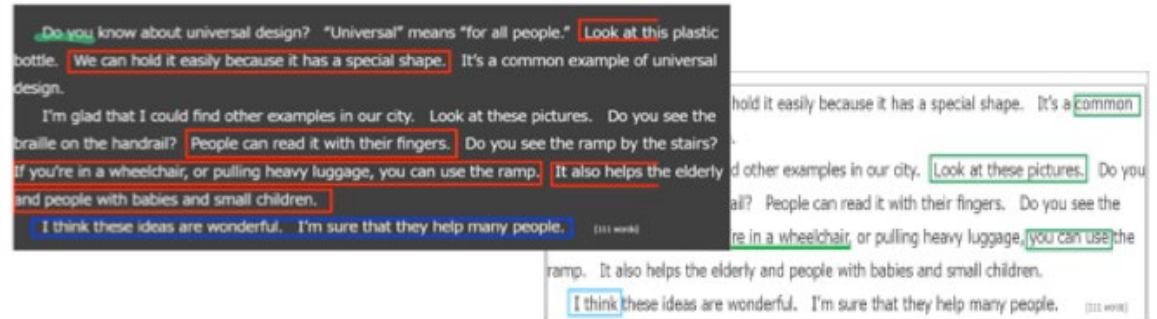
- 「現状の課題」
 - 基礎基本や既習の学習内容の定着に差があるが、**教師が**示した学習方法で**満足し**伸び悩んでしまう生徒も多い。

↓
- 「手立て」
 - デジタル教科書と学習支援ソフトを組み合わせ、**生徒自身で**必要な語彙を考え、整理したリストを作成。選んだ語彙の発音等を繰り返し確認する。

↓
- 「目指す姿」
 - 生徒自ら「自分が表現するために**必要な語彙**は何か」を考えて、繰り返し発音等の確認に立ち返り、練習する。

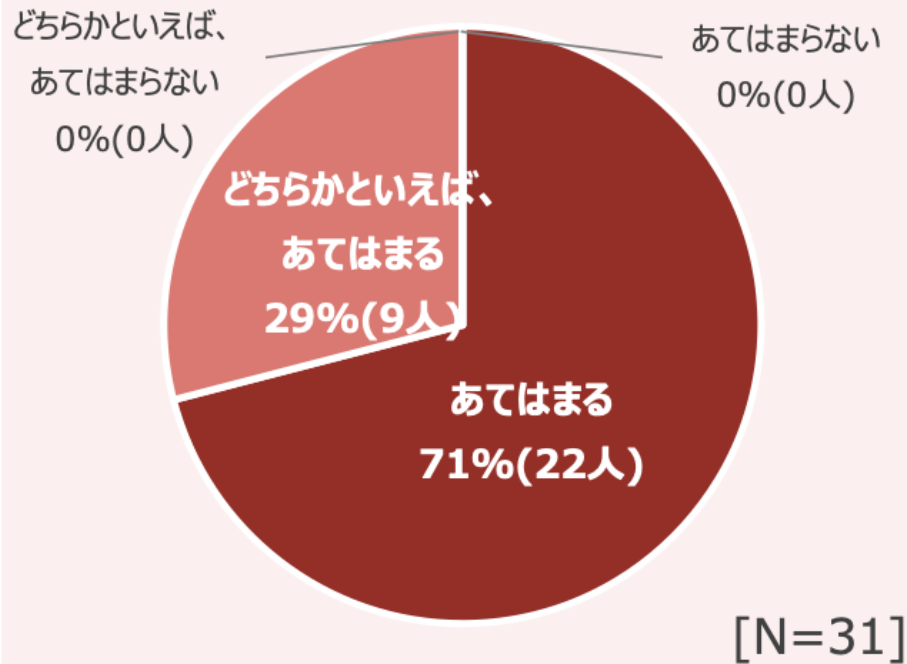


▲デジタル教科書の語彙のコンテンツを振り返る



▲参考になる表現をデジタル教科書から選び、各々の色使い・線の引き方でまとめる

質問①：Unit.4の単元でBINGOの「My List」を作る時、自分が表現するために必要な英単語を考えながら選びましたか。



質問③：Unit4の単元で作ったBINGOの「My List」について、英単語はどのような理由で選びましたか。
(自由記述、一部抜粋※)

①に「あてはまる」と回答した生徒

- 英語の発表で使うから。読み方が分かってても書けないから。
- その時に（授業で）取り組んでいたShinとNamiの悩み事で使う英単語から選びました。
- 発音が難しいもの・意味が完璧でないものを選びました。

①に「どちらかといえば、あてはまる」と回答した生徒

- 発表の時に使う単語や自分が覚えなければならない英単語を覚えるために選びました。
- スペルが長いものや、難しそうだったもの、重要な動詞などを選択した。



授業実践を終えての授業者の声（今後の展望）

本取組を通して、生徒は授業者の予想を超えてデジタル教科書等を活用できており、「自分（授業者）がメインで動かす」という視点から、「生徒がメインで動く中で、力を貸すべきところでサポートする」という視点に授業観をシフトすることが重要だと気付きました。

今後の課題として、デジタル教科書から表現を集めることまではほとんどの生徒ができていましたが、集めた表現を使い正しい英文を書くところで躓いている生徒が多い印象でした。基本的な知識・技能の習得が重要なため、今回のような活動を繰り返し行い定着させていきたいです。（加藤葉 教諭）

先生方の印象的な声

苦手な子も大丈夫
ですよ。

白紙がいなくな
りました。

授業中に余白を取
るようになりました。

子供はデジ教に戻る

5人の先生の実践事例から見たポイントと効果

先生が引っ張る

選択肢を渡す

児童・生徒が主語

先生の役割は「教え込む」から
「学び方を見せ、選ばせ、支える」へ

実践のポイント（先生の支援）

- 1 選択肢** 教材・使い方の
選択肢を用意する
- 2 モデル** 学び方をしてから、
選ばせる
- 3 共有** よい例を共有し、
pick upする
- 4 問い** 中間指導と粘り強い
問いかけで支える

「選べる場」を設計し、途中で学びを
見取る

デジタル教科書だからできたこと

目的を意識して、教材・学び方を選ぶ

デジタル教科書や既習Unitから
自分で調べる

マーカー・メモ・音声で何度でも確認する

家庭学習と授業をつなげる

個別最適な学び × 協働的な学びを往還

児童・生徒の変容・効果

選ぶ

目的を意識して、
教材・学び方を選ぶ

探す

デジタル教科書や既習Unitから
自分で調べる

学び合う

友達から学び、
自分に合う方法へ調整する

自己調整する学習者へ

児童・生徒が主語の授業へ

学習者用デジタル教科書は、児童・生徒が「自分で選び、探し、学び合い、表現を改善する」ための学習基盤になる。